

令和3年度 大阪府立岸和田支援学校 第2回学校運営協議会 議事録

(1) 会議の日時及び場所

令和3年10月26日(火)

本校で開催した。2名の委員からは郵送により意見等を聴取することで会議への出席に代えた。

会議時間短縮のため事前に資料を送付した。

(2) 出席者の氏名

会長 高田 昭夫(大阪総合保育大学)

副会長 宇賀 敦子(本校PTA会長)

委員 高原 育子(地域住民) 田中 真樹(阪南市立朝日小学校)

事務局 本校教職員

郵送による意見聴取 齋藤 昌子(本校保護者) 谷 かおり(岸和田市立いながわ療育園)

(3) 議題

- ① 令和3年度 学校教育自己診断中間報告
- ② 令和3年度 学校経営計画進捗状況報告
- ③ 令和4年度 教科書採択報告

(4) 協議内容

- ① 令和3年度 学校教育自己診断中間報告

<事務局> 今年度新設された項目および前年度に比べて評価指数が大きく変動した項目について

- ・新設された項目は、教職員アンケートでは「楽スタ、視線入力装置の指導について」「摂食指導について」「観点別評価について」、保護者では「楽スタについて」、児童生徒では「自立活動について」。
- ・評価指数が大きく変動した項目は、教職員アンケートの「学校行事の工夫」(12%増加)、「学部間の連携」(20%増加)、「地域支援できる人材と体制」(10%増加)である。
- ・回答数は例年並みになると予測される。最終集計後に分析と考察をおこない、第3回学校運営協議会で報告する予定である。

<委員>

- ・教職員の「丁寧な引継ぎなど学部間の連携ができていく」の肯定的評価が20%増加し成果があった。保護者、児童生徒にとって良い方向に様々なことが進んでいく土台になる。

- ・資料の教職員数の誤りについての指摘があった。
- ・楽スタおよび視線入力装置の指導を受けている児童生徒はどれくらいか。

<事務局>

- ・楽スタは全児童生徒が指導対象、視線入力装置は現在担任による抽出で指導している。全教職員が指導できるようになることが望ましい。

② 令和3年度 学校経営計画進捗状況報告

<校長> 自己評価（進捗状況）については教職員の専門性の向上と業務改善に重点を置いた。

<委員>

- ・めざす学校像がわかりやすくなっている。
- ・コーディネーターの役割は何か。障がい者の人権についてどのような取組みをしているか。

<事務局>

- ・コーディネーターは各学部1名が校長に指名されている。ケース会議、放課後等デイサービス対応統括、引継ぎを主な業務としている。
- ・人権に関しては、教職員対象に定期的にも人権研修を実施している。セルフチェックシートを配布した。

<委員>

- ・施設での虐待について報道されることが多い。障がい者人権セルフチェックシートがあるので活用してほしい。
- ・学部を超えての縦割り研修は素晴らしい。業務改善で効果のあったことは何か。

<校長>

- ・一人で課題を抱え込むことのないよう、相談できる体制を整えた。また、業務の「見える化」を図った。残業時間は減ってきている。

③ 令和4年度 教科書採択報告

<委員>

- ・多種多様な教科書が採択されている。採択にかかわる教員は何人か。

<事務局>

- ・窓口は各学部教務1人だが、それぞれの学年、教科で採択業務は行っている。

④ その他

<委員>

- ・コロナ禍中でのむずかしさがあるが日常の学校生活を送ることができるようになってほしい。

(5) 議決事項

特記事項なし

(6) 前各号に掲げるもののほか、必要な事項

学校運営委協議会の開催については9月17日(金)保護者あて文書を配付した。保護者からの意見書はメール、郵送、学校設置の専用箱への投函のいずれもなかった。